



震災が露呈させた「女性のケア労働」の壁

『女性労働研究』第56号では、特集2として「被災地が問いかける女性労働」と題し、3つの原稿を掲載しました。これらは、東日本大震災が浮き彫りにした根強い性別役割分業と女性労働者に対する差別を取り上げています。

特集2の執筆者である、竹信三恵子さんは「震災が露呈させた『女性のケア労働』の壁—被災下の働く女性の声から—」と題し、被災地で働く女性に立ちはだかる様々な壁を具体的に示し、「被災者を基本に据えた新しい救援思想の確立」と『ケア労働の担い手』像を押し付けられてゆがんだ日本の女性労働者の立て直しをはかることが、復興後の社会再建の第一歩」と述べています。竹信さんは、ジャーナリスト、和光大学教員で、東日本大震災女性支援ネットワークの共同代表でもあります。春の研究例会では、この論稿をもとに、3.11 東日本大震災があぶりだした女性労働の問題やその後の被災地の状況、今後の復興について、読者や参加者とともに考えていきたいと思ひます。

なお、『女性労働研究』は、女性労働問題研究会の活動のひとつでもあります。今回の56号全体についての感想や、意見、注文などを、忌憚なく発言できる場にしたいと考えています。あわせてお誘いあわせの上ご参加よろしくお願ひいたします。

日時 : 2012年5月19日(土)
14時30分~16時30分

報告者 : 竹信 三恵子さん
(ジャーナリスト、和光大学教員
東日本大震災女性支援ネットワーク
共同代表・会員)

テーマ : 「震災が露呈させた『女性のケア労働』の壁—被災下の働く女性の声から—」

場所 : 明治大学 リバティタワー
10階 1104教室



- JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩5分

※ 会場で『女性労働研究』56号を、2,100円のところ、1,680円で販売します。